

令和6年度 国営ほ場整備事業に伴う発掘調査

# 板部遺跡

現地説明会資料



調査①遺構検出状況



調査①遺構完掘状況



調査①石皿出土状況



調査①土師器出土状況



調査①遺構検出作業



現地説明会：令和6年7月20日（土） 10時～11時

## 1.はじめに

南国市教育委員会では、令和2年度に国営ほ場整備事業に伴う試掘確認調査を行いました。その結果、新たな遺跡が発見され、字名から「板部遺跡」と名付けられました。遺跡は、ほ場整備事業の工事計画範囲に含まれており、工事の影響を受けるため記録保存を目的とした本発掘調査を令和5年度と令和6年度の2回に分けて実施しています。

## 2.調査の成果

令和2年度の試掘確認調査結果から、古代を中心とした遺構が広がっていると想定されていましたが、調査を始めてすぐに表土直下から縄文土器が多く出土したため、古代よりも古い段階の遺構が検出される可能性が浮上しました。調査を進めていくと縄文時代後期の住居跡と思われる遺構と溝状遺構が見つかり、その他にも弥生時代の住居跡、古代～中世の土坑や溝状遺構、ピットが確認できました。また、それらの遺構や周辺から縄文時代後期～近世の遺物が出土しており、縄文土器や弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄製品などコンテナ数で約35箱が出土しています。

## 3.まとめ

今回の調査成果である縄文時代後期の住居跡と縄文土器の出土は、県内でも貴重な発見となりました。出土した縄文土器は鐘崎式と呼ばれる九州地方の特徴を持つものがほとんどで、板部遺跡から南へ2kmほど離れた場所にある田村遺跡でも同じ特徴を持つ縄文土器が見つっています。このことから、当時の田村遺跡で活動していた人々と何らかの交流があった可能性が考えられます。今後、整理作業を進めていくことで、この地域の縄文時代の人々がどのような交流を行っていたか解明していきたいと考えています。



調査②西端部遺構検出状況



調査②石製装飾品出土状況



調査②弥生土器出土状況



調査②石鏃出土状況



調査②縄文土器出土状況



調査②石錘出土状況

